

Passport

2024 春 Vol.51

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を發揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。

佐賀県版
両親学級



沐浴体験

女性のための交流会



イマドキな職場大賞



心穏やかに生きることに
支えあうこと



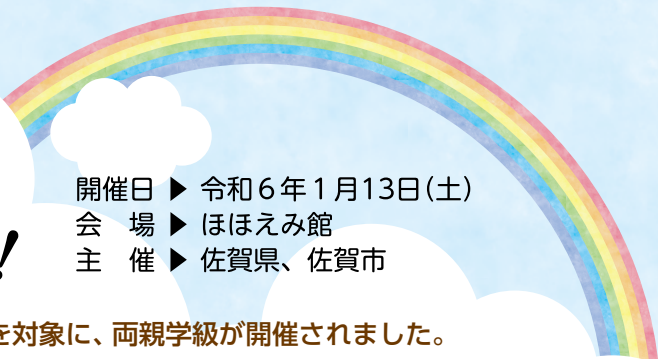
朗読劇・講演会

・ CONTENTS ・

- 佐賀県版 両親学級 P1
- さが・女性政治塾2023 P5
- 女性のための交流会 P2
- 男性の家事・育児参画啓発キャンペーン P6
- 朗読劇・講演会（佐賀市補助事業） P3
- SDGs（ジェンダー平等） P7
- イマドキな職場大賞 P4



佐賀県版 両親学級 開催!



開催日 ▶ 令和6年1月13日(土)
会場 ▶ ほほえみ館
主催 ▶ 佐賀県、佐賀市

これからパパママになる夫婦や子育て中の夫婦などを対象に、両親学級が開催されました。

夫婦の沐浴体験



マイナス1歳からのイクカジ推進事業の一環として、助産師さんの指導のもと夫婦での沐浴体験が行われました。まず全体で沐浴の手順の説明を聞き、次に参加者それぞれが助産師さんのアドバイスをうけながら、人形を使って実際に赤ちゃんの沐浴にチャレンジしました。人形とはいえ、重さや手触りが本物の赤ちゃんのようで、緊張しながらも楽しく学ぶことができました。



参加者の声

- 赤ちゃんを迎える実感がわいてきた。一緒に頑張ろうと思う。
- 赤ちゃんってけっこう重い。頭を支えたり、耳に水が入らないようにするのは大変だ。
- しなきゃいけないので参加したが、楽しかった。初めての体験だった。
- 一人目のときはやらなかったのですが、今回は自分がやろうと思っている。

パパのための育休セミナー ～父親を楽しむためのヒント～



講師

NPO法人ファザーリング・ジャパン九州 共同代表 ^{もりしま たかし} 森島 孝 さん

「ミッションは『よい父親』ではなく『笑っている父親』を増やすこと！」のテーマのとおり、父親を楽しむためのヒントがいっぱいのお話でした。

- 父親が育児にかかわることの最大のメリットは“自分の幸せ”。
- 育休の取得については夫婦の話し合いが大事。
- 育児には経験が重要。「母性は母親だけのもの」は勘違い。
- 出産後の母体の保護のためにも、当事者意識を持ったパパの育児・家事は大切。
- 夫婦の良い関係づくりのために「傾聴・共感・賞賛」は大事なポイント。
- 今ある法律・制度や支援を知ることによってキャリアやお金の不安は解消できる。

最後に、「子育ては期間限定！将来の楽しいイメージを夫婦で共有しながら、楽しんで子育てをしましょう！」と結ばれました。

感想

沐浴体験では、参加された方たちの手つきが本当に優しく、新しい命誕生への希望を感じました。

また、講話では、「楽しむ」という言葉が印象に残っています。楽しむというのはその人が主体的でこそできること。家事も育児もそして人生も、ジェンダーにとらわれずに楽しみたいものです。
(編集委員 矢ヶ部ひとみ)



女性のための交流会

～私の「ロールモデル」を見つけよう!～

開催日 ▶ 令和6年2月3日(土)

会場 ▶ SAGAアリーナ

第3回

Well-beingライフ!

ウェルビーイングな生き方のロールモデル

イベントの
詳細はコチラ



スペシャルゲスト

なかね ゆみか
中根 弓佳 さん

サイボウズ(株)執行役員
Bリーグ理事

サイボウズ(株)では女性初の
執行役員に就任。2019年
からはBリーグ理事。家庭
では中高2人のお母さん。



ゲスト

さいき なつき
済木 南希 さん

「変わりたい!」から一念発起、プロウォーキング講師へ

まさき
真崎 ちゆき さん

飲食店経営。「人見知り」から接客が天職に!

たなか なつえ
田中 奈津江 さん

「公認スポーツ栄養士」を目指し、30歳年下の学生と学ぶ西九州大学4年生

第1部 トークセッション

中根さん × 坂井市長 「ワクワクを通して創る未来」

まずは中根さんと坂井市長の対談。

市長は、佐賀市長として初めて育休を取得されました。お二人とも子育てと仕事のバランスは現在進行形の課題で、子育ての大変さと楽しさを改めて実感されているとのこと。お二人の話に、会場は一気に引き込まれていきました。

共通して語られたことは、つながりの大切さ、「好きなことやワクワクを共感に」でした。中根さんは、それぞれが今やっている「ワクワク」や地域での活動、子育てなど「小さなこと」でもつながることで大きなうねりになる日が来る、坂井市長は、SAGAアリーナを「ワクワクポイント」と、力強いことばで締めくくられました。



済木さん × 真崎さん × 田中さん 「私たちのウェルビーイング」

「ワクワクする、モチベーションが上がっているのを実感するのはどんな時?」というテーマでお話いただきました。「ありがとう。よかった。」の言葉をもらった時、新しいことにトライしてご縁が生まれた時、テストの点数が少しずつ上がって成長を感じる時など答えは三者三様。

ゲストの発言と参加者からどんどん寄せられるコメントの相乗効果で、交流会が前向きに変化していきました。中根さんからは、自分を客観的に認知し「自己肯定感」さらに「自己有用感(自分は役に立っている)」をもつことの大切さも伝えられ、会場全体がエネルギーとパワーで満たされていくのを実感しました。



第2部 「ワールドカフェ」形式での交流会

参加者が少人数のグループに分かれ、第1部のトークセッションから取り入れたいことを話し合いました。仕事や子育てなどそれぞれの思いや悩み、好きなことなどをボードに色マジックでどんどん書き込み、途中で他のチームへ移動しながら話題を共有し、深める作業。終わるころにはすっかり仲良しになって、連絡先を交換する場面があちこちで見られました。



感想

車いすユーザーの方が参加されていたので、お話を伺いました。「歩道など車いすでの移動が難しいところが多い。これはベビーカーを使用する子育て世代にも共通することだと思う。自分が参加し発信することで何らかのお役にたてれば」との言葉にとても感銘を受けました。

参加者の中には、試合観戦狙いで来てみたという声もありました。でも「それだけではなかった。ゲストの皆さんみたいに、自分も前を向いて進んでいきたいと思えた。来てよかった。」終わった後の皆さんの表情はとても晴れやかだったのが印象的でした。

(編集委員 高橋朋子)

佐賀市補助事業

幸せに生きること 心穏やかに支えあうこと

開催日 ▶ 令和6年1月28日(日)
 会場 ▶ ほほえみ館4階 視聴覚室
 主催 ▶ 佐賀市男女共同参画ネットワーク

朗読劇

テーマ

『偏っていませんか?あなたの家の介護』

佐賀市男女共同参画ネットワーク **結い**

佐賀市男女共同参画ネットワーク“結い”のメンバーによる朗読劇が演じられました。在宅介護が必要な高齢者がいる家庭で介護は誰がするのかというテーマについて、近所の方々が世間話をしている場面設定。家族の中で介護は女性がするものという無意識の思い込みがまだまだ根深い中で、他人事ではない家族の介護は誰がするのかについての問題提起でした。

この高齢社会の中、在宅医療介護においても決して一人で抱え込まず、兄弟姉妹で分担を相談したり、「おたっしゃ本舗」などの地域で支援してくれる機関に相談したりすることが大切であることを教えていただきました。



講演

テーマ

介護の現状に関する講演「幸せに生きること 支えること」

医療法人満岡内科クリニック理事長 **満岡 聡** 先生

在宅医療介護や看取りの準備教育に長く携わられている先生から「死」のとらえ方や「死」に対する向き合い方についてお話がありました。8割の人がぼっくり死を望んでいるが思い通りにはならない。最後まで自分が自分らしく生きるために知っておかなければならないことは、数年間は介護生活を受けることが多いということです。

自分や家族の命の問題に向き合った時、家族で意見・判断が異なる場合があるが、他人が当事者の命の問題を決定してはいけません。人生の最終段階における事前指示書である「リビング・ウィル」を文書で残すことを示唆されました。

家族による看取りの意味付けとは、患者さんを一番愛する人たちがその側にいて最後の時間を支え一緒に過ごすこと、患者さんに心残りがないようにケアをすること、患者さんから最後のメッセージを受け取れること、患者さんへ最後のメッセージを伝えること、だんだん弱っていく姿を見つ、患者さんが亡くなる過程を見て、その死を自分の中に受け入れることであるという内容が印象的でした。



感想

先生からいただいた最も印象に残った言葉を紹介して報告を終わります。示唆に富む講演をありがとうございました。

「人は一人では幸せになれません。家族や仲間を作り、支え合い、喜びや悲しみを分かち合いながら命を繋いでいこう」
 (編集委員 椛島陽一郎)

イマドキな職場大賞 表彰式&研修会

開催日 ▶ 令和6年2月20日(火)
会場 ▶ 佐賀市庁舎4階 大会議室

「イマドキな職場とは『だれもが働きやすい職場』を表しています。業種・業態によって働き方は多様ですが、各企業の工夫やトップのリーダーシップ等々で、この機運がもっと佐賀市に広がるようにと、この賞を設けました。」というのが開会挨拶での市長の第一声です。

職場の在り方・働き方に対する関心の高さが、満員の参加者から伝わって来ました。



I 表彰& 事例発表

産後パパ育休制度完全施行に伴う
先進的な取り組みと、他事業所の参考になる事例

中小規模事業所
(従業員300人未満)の部

野田建設株式会社

小規模事業所で困難といわれる社風の変革を、
仕組みと仕掛けで実現

の だ く み
総務部長 野田 久美 さん

世代交代で夫が社長に就任し、総務部長として経営に関わる。若い人材が不足しているといわれる建設業界の中で看護師の経験を活かし、就業規則の見直しや女性の専門資格取得など『職場として選んでもらう』視点で社風改善に取り組む。外国籍従業員に双子の子どもが誕生して、公的助成金等も活用しながら育児休暇等子育て支援への理解が社内に深まっている。

大規模事業所
(従業員300人以上)の部

木村情報技術株式会社

企業理念の徹底と社長の柔軟な思考で

社員発案の制度が活用されている

にし じ ゆう だい
人事課長代理 西地 雄大 さん

医療業界でのweb講演会配信・AIシステム・メタバース・eスポーツ等の関連事業を425名の従業員で展開。朝礼で理念を読み上げ、普段の意識の浸透を重視し、SNSを活用した迅速な社内コミュニケーションで心理的安全性の確保を図ることで、新たな発案や制度の実効性が高まっている。

II 研修会

「失敗する要因の第1位は何だと思いませんか？—それは“何もしないこと”です。」から始まった研修会。多様性とはや対話の重要性を軸に、巧みなトークであつという間に時間が過ぎました。



まつひさこうじ
講師の松久晃士さん
(株式会社 KURUMAZA代表取締役)

実践形式の初対面で関係性を深める対話や失敗談に反応する対話の場面では、笑い声が飛び交う中で対話を実感でき、具体的で細やかな解説は理解が進みました。

今後、事業所で新たな実践が進められていく時、きっと今回の講演が役立つと感じます。
(編集委員 友安賀代子)

表彰式&研修会の詳細はコチラ



さが・女性政治塾 2023

開催日 ▶ 令和5年10月21日(土)
会場 ▶ メートプラザ 多目的室
主催 ▶ 特定非営利活動法人 女性参画研究会・さが

政策・方針決定過程への女性参画をめざして、今年度5回開催される「さが・女性政治塾2023」。今回は、その第2回目を取材させていただきました。

I 講演

テーマ

女性と子どもの貧困について

講師

NPO空家・空地活用サポートSAGA うちかわ みさこ 内川 実佐子 さん

- 住宅確保要配慮者の居住支援
- 佐賀コミュニティフリッジ（ひとり親家庭の公共冷蔵庫）
- こども第三の居場所「居場所 そら」
- ひとり親家庭のためのシェアハウス

課題を抱えた子どもや女性たちに直接手を差しのべる活動の、幅広い実践の中から上記4項目を中心に、生きることに直結する食や居住など現場の生の声や状況を、明るく力強い持ち味で講演。

そこに見え隠れする深くて多様な課題が伝わってきました。



II グループ ディスカッション

3つのテーブルに分かれ、前半の内川実佐子さんによる講義を受けての議論が開始。課題に気づき、解決に導くにはどんなアプローチがあるか。ただの感想の交換ではなく、的確な質問や提案につなげていくために、各テーブルに同席した現役議員の方々が、時には柔らかく時には強い説得力で助言され、具体的な仕組みづくりなどの解決策について、次第に議論が盛り上がっていきました。



感想

ジェンダーギャップ指数（世界経済フォーラム、2023）が示すように、女性の政治活動のフィールドはまだまだ硬く、荒野に近いかもしれないと日頃私は思っていました。しかし今回の取材でまず感じたのは、女性政治塾を主催するメンバーの『想いが放つ熱』でした。多忙な時間を割き、会場確保・配布資料・プロジェクターやマイク等の準備をはじめ、当日の受付・司会・発信のための動画や写真の撮影・この日の様々な記録等々…手弁当で各々が役割を担当。埋もれている人材を掘り起こして育て、活動の輪を広げたいという強い意志がなければ、とても出来ないことだと思います。

政治という土壌を耕し、種をまいている人々がここにいる。今回のような地道な活動が新たな芽となり、斬新な提案や活動が生まれ、課題解決への道筋につながるに違いないと思える取材となりました。

（編集委員 友安賀代子）

男性の家事・育児参画啓発キャンペーン

家族はチームだ!

みんなでやろう家事・育児

「家族はチームだ!みんなでやろう家事・育児」を合言葉に、家事や育児に積極的に取り組むパパの姿をシリーズで紹介してきましたが、いよいよ最終回になりました。

これまでご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

市HPでほかのパパたちも紹介しています!



徳山 鐘三さん(33歳)
勤務先>木村情報技術株式会社
家族構成>パパ+ママ+息子(0歳)
得意な家事>洗濯・掃除・寝かしつけ

メリハリが大事!家事育児は夫妻で協力し、大人の自由時間もとっています
子どもがいると毎日がイレギュラーの連続!思い通りに家事が進まないこともあります。楽しみながら取り組んでいます。
夫妻で協力し合って、それぞれ自由時間も設けているのが無理なく続けられるコツかもしれません。



古賀 泰詞さん(32歳)
勤務先>株式会社ソア
家族構成>パパ+ママ+娘(5歳+2歳+0歳)
得意な家事>食器洗い・風呂掃除・洗濯物を畳む・ゴミ出し

以前は家事をほとんどしなかったけれど、今では習慣になりました
以前は家事を妻に任せきりでしたが、妻が病気で寝込んだ時に初めてウンオベを経験し、大変さが身にしみて...分担を決意!
今は平日の出勤前後に家事をして、休日には子どもと全力で遊ぶのが習慣です。



高田 悠介さん(36歳)
勤務先>佐賀市役所
家族構成>パパ+ママ+息子(4歳+1歳)
得意な家事>洗濯物を畳む・掃除・寝かしつけ

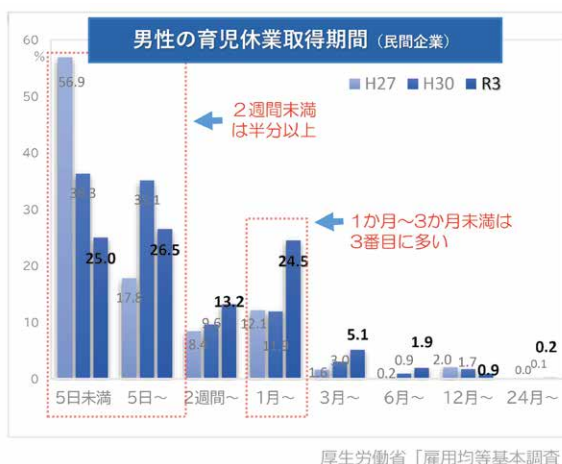
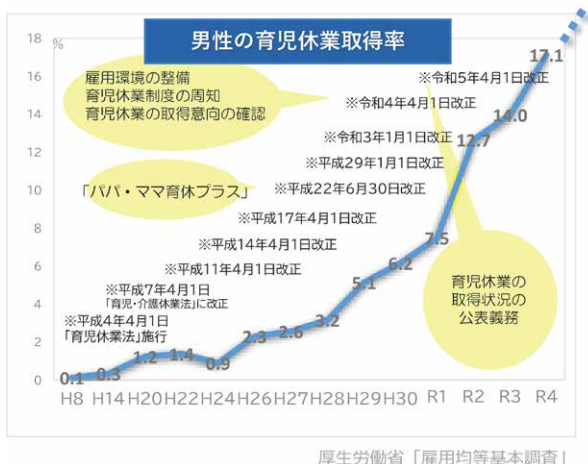
家事をする私の姿を見て、息子が手伝うようになりました
私が家事をしている姿を見ているからか、長男が「お血を洗うね!」と語ってくれるようになりました。その言葉だけで嬉しい!
慣れない手つきをちょっとハラハラしながら見守りつつ、成長していく姿に胸が熱くなります。



令和5年4月に完全施行された改正育児・介護休業法により、育児休業等取得の状況を1年に1回公表することが義務付けられました。

これらをうけ、令和5年7月31日に、厚生労働省「イクメンプロジェクト」による「令和5年度男性の育児休業等取得率の公表状況調査」(速報値)の結果が公表されました。この調査の結果、従業員1,000人超の企業における、**男性育休等取得率は46.2%、男性の育休等平均取得日数は46.5日**となりました。

※男性の育児休業取得率、取得期間のこれまでの推移は下のグラフのとおりです



○今回紹介したイクメンの皆さんは、佐賀市男女共同参画推進協賛事業所から推薦していただきました。



ジェンダーの平等を達成しすべての女性と女の子のエンパワーメントを図る



ジェンダー平等の政治 に向けて

ジェンダー平等が急速に進展している21世紀国際社会で、日本は政治分野において「ジェンダー平等後進国」になってしまいました。なぜジェンダー平等な政治が実現しにくいのか考えてみました。

- ① 日本の社会はこれまで「わきまえる」ことを女性に求めてきた経緯がある。「わきまえる」とは「女性であることを十分意識して、出過ぎたことを言わない、やらない」という抑圧である。
- ② ワーク・ライフ・バランスを保つことができないのが、今の議員の現状である。女性は子育てや家事の大半を未だに担っているため、家族からの支援がないと政治にコミットできない。
- ③ 女性の自己評価の低さである。リーダーになろうとすると抑圧されることを経験してきたので、能力が高くても自信がなく、競争的な地位を獲得することに消極的である。
- ④ 資金力のハードルが高い。男女賃金格差が大きい現状と、資金源である企業や団体との繋がりの薄さが女性に不利である。

男女で経験や視点が異なるため、関心のある政策領域は異なります。男性は経済、外交、安全保障を重視し、女性は暮らし向きや教育、子育てへの関心が高い傾向にあります。ところが、これまで主に男性が政治を担ってきたため、女性が抱える課題は解決しづらく、社会の多様な声を聴くという機能を果たせませんでした。

これからは、実態調査・情報の収集、啓発活動、環境の整備、人材の育成という「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の基本的な施策を、行政と議会と市民がともに具体化し、政治分野への女性の参画が進展することが求められています。

(編集委員 草場栄美)

ぱすぽーと編集委員、募集中!

佐賀市が毎年2回発行している男女共同参画情報誌「ぱすぽーと」を一緒に作ってくださる編集委員を募集しています。文章を書くのが好きな方、取材活動や男女共同参画に興味がある方のご応募をお待ちしています!

詳細は右のQRコードからご覧いただくか、男女共同参画課へお問い合わせください。



編集委員

(五十音順)

椛島陽一郎・草場栄美・高橋朋子・友安賀代子・矢ヶ部ひとみ

※編集委員は市民の方々にご協力いただいています。

発行・お問い合わせ

佐賀市男女共同参画課

TEL 0952-40-7014

E-mail danjo@city.saga.lg.jp

HP <https://www.city.saga.lg.jp/main/438.html>



過去の「ぱすぽーと」がwebで閲覧できます!